

3月報(2023年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【トルコ南東部地震救援街頭募金に寄せて】

福祉部 野田 茂生

2月6日早朝に発生した、トルコ南東部のカフマンマラシュ(なかなか覚えられない)を震源とするマグニチュード7.8の大地震は、一帯を瓦礫の山と化し、トルコと隣国のシリアでの死者数はとうに4万人を超えている。

直近の主日である12日(日)のミサの前後に福祉部は募金をやらないのか、と何人かの信者に尋ねられた。「ああ、いずれやりますよ」と曖昧な返事をした。死者の数だけを問題にすると、2011年の東日本大震災のすでに2倍以上に上っている。しかし、私には、あの時のような情熱が自分の内から湧き上がって来なかったのだ。

あまりにも遠い地で誰一人知り合いのいない(音楽家で私が一方的に敬愛する人は何人かいるが)地での出来事だからか、国連や国家レベルで救助・支援はすでにおこなわれていたし、私(たち)のなけなしの小さな金を、いま送ってどうするのか。そんな思いに囚われていた。

いや、そうではない。いまの暗鬱な社会の空気とどう向き合うのか、私には整理が出来ていないのだ。具体的には、ひとつは、ウクライナでの戦争だ。始まって1年が経過しようというのに、戦況は混沌としたまま、終結の気配は見えない。「国際社会」とやらは寄ってたかって何をしたのか、私たちの祈りは届かないのか、その苛立ち。むしろ透けて見えて来るのは、国家資本主義の損得勘定とエゴイズムだ。おりからのコロナ禍において、貧富の格差はさらに増大している。私の周囲にも生活に苦しむ友が何人もいる。資本主義というシステムは人間を幸福にしないことが露呈してきているが、情報権力はそれを隠蔽するのに懸命だ。地球温暖化問題も待ったなしの喫緊の課題としつつも、我が国では経済優先のシフトから逃れ得ず、軍拡と合わせて原発再稼働が既定路線となりつつある。

それでも、その週の水曜日には「やっぱりやろう」と決心し、富田恵子さんに看板の字を書いてもらい、伊藤望さんに募金箱のラベルを作ってもらい、星緑さんに道路使用許可証をとってもらい、私は教会の友にメールを送って参加を呼びかけた。

当日は7人の信者が街頭に立ってくれた。集まったお金は果たして大きな金額ではなかった。教会で募金して下さった額の方が、街頭で集めたものよりずっと大きかった。

私(たち)は、死者の数とか、金額とか、つつい統計的な数値に関心がいく。しかし、大事にすべきは、被災地で苦しむ人々や命ついていた人々を具体的に想像しうるかどうか、ではないか、いま私はそう感じています。

【ミカエルフェスタ 2023 の報告】 元気を出そう 福山教会！！

責任チーム：協働

コロナ禍という事を考慮し、ミカエルフェスタ月間(1/22～2/12)として開催いたしました。紹介展示や、手作り品・献品の販売など 8 組の方々に工夫を凝らした出店をして頂きました。毎回ミサ後の短時間ではありましたが、皆さんこの機会を楽しみにされていたようで、盛況のうちに終了する事ができました。(特に手作り品に関しては、あっという間の完売でした！)

ご協力頂いた皆様、参加・献金をして頂いた皆様に感謝いたします。

来年こそは、従来通り飲食やゲームが楽しめ、皆が笑顔になれるミカエルフェスタが開催出来ることを願っています。

今回のミカエルフェスタの集計は 86,766 円でした。献金先としては、福島(カリタス南相馬 VC) 支援 3 カテドラル修復費 3 福山教会 4 の割合で献金させていただきます。

	代表者：	出し物名：	実施日時
1	富田恵子	浦上 4 番崩れの福山流配の紹介展示	1/22～2/12
2	田中 靖	暁の星シトラスリボン 世界平和の折バラ展示	1/22～2/12
3	藤本洋子	京都カルメル会 クリスマスクッキー販売	1/22
4	藤井幸恵 中島知子	お持ち帰りコーナー	2/5 2/19
5	倉田真規子	山菜おこわ	2/5
6	小林絹子	ジャム	2/5 2/12
7	池田ユキノ	ミニフランスパン	2/12
8	内藤悦子	つまみ細工	2/12



2月6日に福山巡礼がありました。参加者は9人で天気も良く気持ちのいい1日でした。私は3年前に一度参加したのですが、その時の巡礼の道中で交わされた会話に触発されて、福山教会の歴史をわかりやすく書き直しました。それが教会のホームページに掲載されています。それで分かったマイエル神父様が福山に最初につくった東町教会(現在のカトリック福山教会の元となる教会)があった場所、そして明治時代にパリミッション会が建てた、やはり東町にある福山天主公教会のあった場所も巡礼のコースに入れてもらい、みんなと一緒に訪問できたこともよかったです。



また、今回参加したのは、前回参加した際に『なぜ浦上四番崩れの後、最初の流配地に福山が選ばれたのか』という疑問が残り、誰に聞いても分からず、どの文献にも書いてないので、自分で仮説をたて、それが正しいかどうか確認するためでした。その仮説とは、「まず福山藩は西国の大名たちを監視する譜代大名として置かれたこと。そして江戸時代末期に二度あった長州征伐に2回とも参加しており、完全に幕府側とみなされていたこと。そのために明治時代以降、政府から福山は冷遇されていくのですが、この時、明治政府が『厄介なことを福山に押し付けてやろう、鞆港というちょうどいい港もあるし』と思って福山を流配地として選んだとしてもおかしくないのではないかということ。だから福山の対応も、もちろん表立って逆らうことはできないのですが、流配されてきた人々に対して、他の所のように酷い扱いをせず、丁寧に扱っているのではないか」というものです。結論から言うとこの仮説はほぼ正しいのではないかと確信をもちました。

実は、福山にカトリック教会をつくったイエズス会のマイエル神父様は「福山は、明治初期に長崎からキリシタンが流配された記念すべき土地であるから、是非ここに教会を建てたかった」と言っており、また彼の尽力で現在の地に教会が建っている(HPの教会の歴史参照)ことを思えば、歴史は輪切りされたものではなく、つながっているものなんだなあと思います。



パリミッション会が建てた教会のあった場所を指す筆者

こういう時代だからこそ、このカトリック福山教会が陸軍憲兵隊跡に建てられた意義と、203高地に地形が似ていることで陸軍の演習場になった場所の一部に暁の星学院がつけられた意味をもう一度よく考えてみたいものです。

【ブラザー阿部のみ言葉の分かち合い】～ミカの預言 6 章～

『人よ、何が善であり、主が何を前にお求めておられるかは、前にお告げられている。正義と行い、慈しみを愛し、へりくだって、神と共に歩みこと。これである。』

このミカの預言の言葉は、そのまま、今の世界に当てはまるように思います。

ロシアとウクライナで起こっている戦争をはじめ、たくさんの紛争とテロ、すべてを神がお許しになっているとは思えない、悲惨な戦争が起こっています。わたしたちは、祈って、祈り続けています。平和を願わないものは一人もいません。いま、争いの中にある兵士も、自分のためではなく、自分の国と家族のために戦っているのです。今日の聖書の言葉の最初に。

「何が善であり、主が何を求めておられるかは、私たちに告げられている」とあります。私たちの毎日の行いを、いつも神のみ旨に沿って歩みましょう。

世界の指導者たちに、何が神の望みで、神に喜ばれることであるお与えください。彼らのために祈るわたしたちも、イエスが私たちのうちに生きるものとなりますように。

最後に。今日の集会祈願の祈りを捧げます。

「聖なる父よ。あなたをいつも敬い、愛する心をお与えください。あなたを愛して生きる者は、見捨てられることがないからです。」

【教会掃除についてのまとめ】

責任チーム：協

1 昨年から、地区長会議や定例委員会に於いて話し合いを続けてきた教会掃除見直し案がまとまり、動き始めました。大きな変化は、第3日曜日はベトナム語ミサ参加者、第4日曜日は、英語ミサ参加者が担当する事になった事です。第1週、第2週、第5週は従来通り日本人が地区別を担当し、現状の土曜日掃除が続けられる方向でまとまりました。今後の当番表は次の通りです。

1) 今後に残る課題

外国人の方々の掃除参加は、日曜日にする事で実現しました。でも、土曜日掃除が残った為に、見直しの大きな目的の1つである世代交代は、さらに大きな課題として残されてしまいました。多分、5年先は、今頑張っている人も、一人減り二人減りして、今のままの地区・ブロックで支える事がさらに大きな負担になっていくと想定されます。

2) 他教会の掃除当番の情報

- ①都市型教会に多い例：他民族・他教区からのミサ参加が多く、地区割りができいていないので、「クリーン隊」のようなボランティアを募集して、そのグループを班割りして対応している例。
- ②カテドラル等に多い例：有料で業者を入れたり、有志を募ったりして、対応している例
- ③信者の少ない教会に多い例：日曜日のミサに参加した人でその日その日で対応する例。
- ④地区別で対応しているが、高齢化、1部の限られた人で対応している例。

これからの福山教会がどのように変化して行くかは分かりません。この今回の見直しを関わってくださった皆さまに感謝しながら、さらなる発展を祈りたいと思います。



3) 今後の当番表

	第1週目	第2週目	第3週目	第4週目	第5週目
3月	4,5 第6ブロック 山手・松永・沼隈	11,12 第7ブロック 御幸・本庄・吉津	19 ベトナム語 ミサ参加者	26 英語 ミサ参加者	
4月	1,2 第8ブロック 府中・北部・新市・神辺・修道院	8,9 第1ブロック 御船・御門	16 ベトナム語 ミサ参加者	23 英語 ミサ参加者	29,30 第2ブロック 南部
5月	6,7 第3ブロック 深津	13,14 第4ブロック 春日・幕山	21 ベトナム語 ミサ参加者	28 英語 ミサ参加者	
6月	3,4 第5ブロック 手城・大門引・伊	10,11 第6ブロック 山手・松永・沼隈	18 ベトナム語 ミサ参加者	25 英語 ミサ参加者	
7月	1,2 第7ブロック 御幸・本庄・吉津	8,9 第8ブロック 府中・北部・新市・神辺・修道院	16 ベトナム語 ミサ参加者	23 英語 ミサ参加者	29,30 第1ブロック 御船・御門
8月	5,6 第2ブロック 南部	12,13 第3ブロック 深津	20 ベトナム語 ミサ参加者	27 英語 ミサ参加者	
9月	2,3 第4ブロック 春日・幕山	9,10 第5ブロック 手城・大門引・伊	17 ベトナム語 ミサ参加者	24 英語ミサ参加者	30,10/1 第6ブロック 山手・松永・沼隈
10月	7,8 第7ブロック 御幸・本庄・吉津	14,15 第8ブロック 府中・北部・新市・神辺・修道院	22 ベトナム語 ミサ参加者	29 英語ミサ参加者	
11月	4,5 第1ブロック 御船・御門	11,12 第2ブロック 南部	19 ベトナム語 ミサ参加者	26 英語ミサ参加者	
12月	2,3 第3ブロック 深津地区	9,10 第4ブロック 春日・幕山地区	17 ベトナム語 ミサ参加者	24 英語ミサ参加者	30,31 第5ブロック 手城・大門引・伊地区

新しい年のスタートはいかがでしたでしょうか？

うさぎ年に相応しく飛躍の年となれそうでしょうか？出だしが良ければ、嬉しいですが、もし思うようなスタートが切れなかったとしても、まだまだ挽回というより、今は助走の段階、これからいくらでも変えていけるでしょう。

さて先月予告しましたように、「小高への想いを語る集い」について分ち合いましょう。

残念ながら第1回目の双葉屋旅館の女将、小林友子さんと瀬下智美さんのお話は、都合がつかなくて聞き逃しました。このお二人とも教会幼稚園の卒園生で、この集いの準備委員の中心人物です。2回目の同慶寺の住職さんの田中徳雲さんと小高行政区の区長を長い間なさっている林勝典さんのお話が聴けました。林さんは小高区にある39の区の区長会の会長で、小高区全体の世話役です。

林さんは震災の時、区内のある家庭を訪問していて、お茶を出されて飲もうとしていた時にグ



ラッと来た。とそれから、大変で、さらに原発事故の後は、全住民の強制避難ということで、バスが2台来たので、高齢者を先に1台目のバスに乗せて、後の人が2台目に乗って出発したら、何と2台が別々の避難所に行き先が違って、家族がバラバラになった。それで、誰がどこに避難したか把握するのに苦労した。どうしてそんなことが起こりうるのか、本当に考えられないことがこのような非常事態には起こるということを学んだ。そ

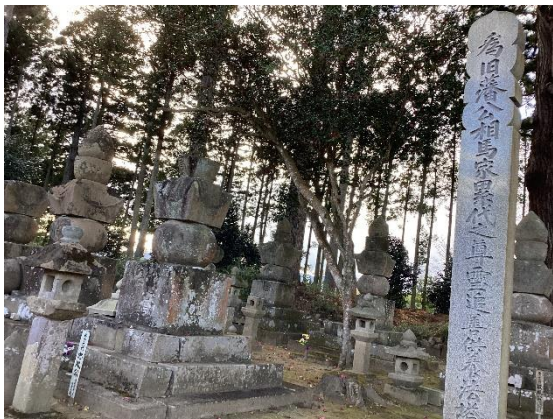
してこの区長さんはご自分の健康が危うい状況の中で、自分のことを顧みないで、区民のために時間を惜しまず、どこに避難されているか情報を集めるために奔走されます。そのご苦労を思うと本当に頭が下がります。支えて来られた奥様も出席されていましたが、ご主人の健康が心配なうえに、ご自分も心臓の調子が悪く、入院を余儀なくされながらも、区長のおしごとのためにご夫婦で懸命に生き抜いておられ、本当に尊いお姿と見えました。そして今は、農業を少ししながら、小高区の将来を見据えた復興の在り方を模索しておられます。懸念されていることは、耕作放棄地となっている田んぼに、太陽光ソーラーパネルがだんだんと増えていっていることです。いったんソーラーパネルに占拠されてしまうと、移住したい人があっても、住宅が建てられなくなることです。と。

私もそのことは大きな問題だと思っています。以前聞いたことがあるのですが、津波を経験された人が、ソーラーパネルの海を見ると、津波の海を思い出して気分が悪くなると。持続可能なエネルギー対策として、CO2 排出ゼロの太陽光発電は救世主のようで、急速に普及して、本当に耐用年数が来た時に処理ができるのか心配です。その時 CO2 の排出ゼロで処理できるのでしょうか？

同慶寺住職の田中徳雲さんは、住職になったいきさつを話してくださった後、原発の爆発を知られた時のことを話してくださいました。

以前から自分は原発の危うさを感じて原理を調べていたので、これほど大きな地震だと原発が大変なことになると感じて、周りの人に危険だと話したが、誰も皆「原発は安全」だと信じ込んで相手にされなかった。3人の子供と奥さん（この年に4番目のお子さんが生まれているので、恐らく妊娠中）を守るのは自分しかいないと、直ぐ福井県に知人を頼って、避難をされたそうです。そして避難先から通って、津波で亡くなった方々のため、遺体安置所で来る日も来る日も読経をあげて、弔いに明け暮れました。と（亡くなった方々の神様のもとでの安らかな憩いを祈ります）

大地震と津波の大変な時に、それでも7月末の相馬野馬追の行事をすることになり、相馬家の菩提寺である同慶寺の藩主のお墓が倒れたままになっているのはよくないと、重機を借りることが出来るのが、5月の連休ということで、倒れたお墓を起す作業を多くの住民が協力してくださった。住民の皆さんは避難生活をしているのに、自分の家のことを差し置いて、藩主のお墓の再建を第一に考える、このことは小高の人々の心のありようを如実に表している。小高の人々が何を大事にして生きているかが分かる。即ち、目に見えるものでなく、歴史、文化、先祖崇敬など目に見えないものを大事にされていることに感動したとも話されました。



そして、この原発の事故を体験した私たちは、生き方を変える必要がある。本当に何を大事に生きるのか。

リンゴの木に例えると、今まで実を享受することを第一にして、よりおいしい、より大きく、より美しい実を求めて、際限のない追及をしながら、肝心の樹木のこと、幹のこと、根っこのことをおろそかにしてきた。地球が破壊されそうな今、私たちに何ができるのか、果実中心でなく、実も大事だが、実をもたらず幹や根っこをもっと大切にする生き方を求めなければならない。樹木を傷

つけたら果実もできなくなる。大地とのつながりが途切れていた人間の根っこを取り戻すよう、すべての人間、一人一人が人間中心、個人主義から脱却して、精神的に成熟しなければならない。と訴えられました。

このお話を聞きながら、私は、私たちの共通の家である地球が今破壊されていることに警鐘を鳴らした、教皇フランシスコの「ラウダート・シ」を思っていました。

「この姉妹（母なる大地筆者注）は、神から賜ったよきたまものをわたしたち人間が無責任に使用したり濫用したりすることによって生じた傷のゆえに、今、わたしたちに叫び声をあげています。わたしたちは自らを、地球をほしいままにしてもよい支配者や所有者とみなすようになりました。罪によって傷ついた私たちの心に潜む暴力は、土壌や水や大気、そしてあらゆる種類の生き物に見て取れる病的兆候にも映し出されています。こうして、重荷を負わされ荒廃させられた地球は、見捨てられ虐げられた最も貧しい人々に連なっており、『産みの苦しみを味わって』（ローマ8:22)) いるのです。わたしたちは自らが土の塵であることを忘れてしまっています。（創世記2:7参照）わたしたちの身体そのものが地球の諸元素からできています。わたしたちは地球の大気を呼吸し、地球の水によって生かされ元気をもらっているのです。」（教皇フランシスコの回勅「ラウダート・シ」No.2）

自分のできる小さなことから、人々と地球への思いやりを具体的に実践していきましょう。

3 月		4 月	
5(日)	四旬節黙想会	6((木))	聖木曜日(主の晩餐)
10(金)	聖虐待被害者のための祈りと償いの日	7(金)	聖金曜日(主の受難) 大斎・小斎
17(金)	日本の信徒発見の聖母	8(土)	聖土曜日
20(日)	聖ヨセフ 日曜学校終業式	9(日)	復活の主日
25(土)	神のお告げ	16(日)	初聖体

【編集後記】

カトリック新聞に広島教区の人事が載りました。とうとう心配していたことが現実になりました。(ここからは私見ですが)教会巡りをしている時、玉野教会で猪口神父様との出会いは「印象悪い方!」というものでした。福山教会に来られてからは、教会内の整備、施設の充実、組織の刷新、ミサのあり方…神父様の鋭い感性で教会がみるみるうちに整い美しくなりました。信者さん同志の交流がより温かくなりました。

“コロナと共に来てコロナと共に去っていく”とは神父様の弁です。
いえいえ神父様は私にとり“将来また福山教会に帰ってきてほしい”方です。(T・N)

